

教科（科目）	社会（公民的分野）	学年（系）	3年
使用教科書	中学社会 公民的分野（日本文教出版）		
副教材等	ビジュアル公民（東京法令） 公民の学習（浜島書店） 基礎をきづく公民（浜島書店） 新社会の研究（新学社）		

## 1 学習目標

- 現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
- ・個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
  - ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
  - ・現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

## 2 指導の重点

- ・小・中・高のつながりを意識し、小から高への橋渡しする役割を担っていることを自覚して指導する。
- ・様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付け、「現代社会の見方・考え方」を働かせて多面的・多角的に考察したり、公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしながら、よりよい社会の構築に向けて構想できるように指導する。
- ・基礎的・基本的な公民的知識を確実に身に付けさせる。

## 3 指導計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	備考
4	私たちと現代社会	P 1～33	・私たちが生きる現代社会の特色 ・現代社会の文化と私たち ・現代社会の見方・考え方	6	
5	私たちの生活と政治 個人の尊重と日本国憲法	P 34～76	・法に基づく政治と日本国憲法 ・日本国憲法と基本的人権 ・日本の平和主義	6	
6	国民主権と日本の政治	P 78～86	・民主主義と政治参加	6	中間考査
7		P 88～120	・国の政治のしくみ ・くらしを支える地方自治	6	
9	私たちの生活と経済	P 122～134	・経済のしくみと消費生活	6	期末考査
10		P 136～152	・生産の場としての企業	6	
11		P 154～158	・金融のしくみとお金の大切さ	6	中間考査
12		P 160～174	・財政と国民の福祉	6	
1	私たちと国際社会	P 176～192	・国家と国際社会	6	
2		P 194～210	・国際社会の課題と私たちの取り組み	6	期末考査

3	私たちの課題	P 212～220	・持続可能な社会を目指して	5
---	--------	-----------	---------------	---

計65時間(48分授業)

#### 4 課題・提出物等

(課題) 長期休業課題 定期テスト前課題 自主課題 (提出物) ワークノート 自主学習ノート
--

#### 5 評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価基準
評価の観点	個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めているとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめている。	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。	現代の社会的事象について、国家及び社会の担い手として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。	評定 > 各観点の合計点 達成率 5…80%以上 4…70%以上 3…50%以上 2…40%以上 1…40%未満
評価方法	以上の観点をもとに、 ・授業の取り組み(授業態度や学習活動への参加状況)・課題への取組状況・小テスト ・定期テストなどから総合的に評価します。			
	A 十分満足できる…80%以上 B おおむね満足できる50%以上 C 努力を要する…50%未満			

#### 6 担当者からの一言

「公民」とは、社会と関わりながら生きる私たちという意味です。私たちの住むこの社会は、いったいどのような仕組みと考え方で成り立っているのでしょうか。一人一人の人間がよりよく生きることのできる社会をきずくのに必要な知識と知恵を学びとりながら、社会の働きに積極的に参画していく心構えをつちかっけていきましょう。